

(1) 平成25年度 研究主題(2年次の1年目)

基礎学力の定着を図る指導法の研究 ～個に応じた学習指導の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の理由

ア. 学校課題への対応

本校の学校課題として、極小規模複式校の実態から多くの児童との交流の場が少なく多様な意見や考えに触れる機会がないために、思考が深化しにくいことが課題である。また、2学年3人の複式学級であっても個人差が大きく複々式の授業になる。さらに実態から、家庭学習が習慣化されておらず、基礎学力の十分な定着まで図られていない。その課題への対応として、確かな基礎学力を身につけさせることが重要である。

そこで、学校目標を受けて授業実践の中で「基礎学力の定着を図る」ことが、各教科の学習のねらいを達成させるために必要であると考え。

イ. これまでの研究経過と児童の実態から

本校では、23年度から3年計画で今までの研修をもとに、「書く」ことによって課題解決をしながら、思いや考えを深め学ぶ子どもの育成を図りたいと考えて実践してきた。国語科を中心として書く活動に取り組んだことで、文章の内容理解が図られ自分の考えを整理し、考えを作文に生かして書く学習の成果が見られた。しかし、児童の実態を把握したところ、書いたものをもとに発表したり適切な受け答えをしたりする表現力の不足についての課題がみられた。

そこで、今年度は今までの書く活動の成果を生かしながら、さらに音読や読書、漢字の読み書き・計算力などの個に応じた基礎学力の向上を図りたいと考える。基礎学力の定着が図られることで、各教科・領域の学習のねらいにせまる力を身につけさせることができるだけでなく、表現力や自学自習ができる力も向上させることができると考える。今年度から主題を改め、閉校までの2年間で基礎学力を身につけさせる指導法の研究をし「わかった!できた!」が実感できる授業を目指して子どもを育てていきたい。

(3) 研究のねらい

確かな基礎学力の向上を図るために、個に応じた学習指導の工夫をすることが効果的であることを、授業実践を通して明らかにする。

(4) 研究仮説

各教科・領域で個に応じた学習指導の工夫をすることで、確かな学力を身につけた子どもを育成することができる。

(5) 研究内容

ア 基礎学力の定着を目指した授業の工夫

- ①各教科における基礎学力の向上を図る指導法の工夫
- ②読み取る力・書く力・話す力の向上を図る学習場面の設定

イ 指導の手立て

- ①漢字・計算・音読指導の徹底
- ②資料・ワークシート・ノート指導・板書計画の工夫
- ③めあてと振り返りの指導の継続